

協働事業報告書

事業の名称	中高層住宅に住む高齢者の認知症予防啓発活動		
団体名・氏名	特定非営利活動法人 認知症予防サポートネット	関係課(G)名	高齢福祉グループ 住宅政策グループ
事業費	250,000 円	市の負担額	200,000 円

事業の目的及び内容	<p>(目的) 本市の推定では介護予防該当者を除いた 65 歳以上人口の 32.3%が「認知症予防該当者」とされている。認知症は生活習慣と密接に関連していると言われているので、元気な内に「脳を活性化する」生活習慣を身に付けるかが重要である。</p> <p>特に震災復興住宅の高齢化率は 44%、単身世帯数は 36%と一般公営住宅に比べて高く、認知症予防に関する関心が高いと考え企画した。本事業では認知症予防のために、直ぐに役立つような「講座と実技」を行い、高齢者に認知症予防に関する意識を高めてもらい、いつまでも元気で暮らせる地域づくりを目的としておこなった。</p>	
	<p>(内容) 認知症予防のために、直ぐに役立つような「講座と実技」を行い、高齢者に認知症予防に関する意識を高めてもらえる内容にした。難しい話にせず、楽しんでもらえるような内容も加えた。当初、高畑町市営住宅運営委員会との協力で行う講座は、市民交流センターで行っていたが、「会場まで遠い・・・」と言うことで 3 回目からは高畑町市営住宅集会所に会場を移して行った。</p>	
	<p>(1) 市民交流センター</p> <p>① 認知症を予防する生活習慣 ② 思い出語りで脳を活性化 ③ 歌と手遊びで健康に</p> <p>(2) 高畑町市営住宅集会所</p> <p>① 誰にでも出来る絵手紙 ② 健康長寿のための食生活</p> <p>(3) 甲子園口 6 丁目市営住宅集会所</p> <p>① 右脳を鍛えるはつらつゲーム ② 認知症を予防する生活習慣 ③ 懐かしい歌・心に響く歌 ④ 転ばぬ先の貯筋肉 ⑤健康長寿のための食生活</p>	
	<p>(市民活動団体等の役割)</p> <p>高畑町市営住宅運営委員会と甲子園口 6 丁目市営住宅自治会に協力をお願いし、講座の衆知と声かけをお願いした。</p>	<p>(市の役割)</p> <p>① 市営住宅の紹介 ② 市政ニュースへの掲載</p>

	市民活動団体等	市 ※												
協働事業の成果・効果	<p>参加者 23 名からアンケートを取った結果</p> <p>① 大変満足と満足は 23 名全員であった。満足の理由は、(ア) 他の参加者との交流が図られた (13 名) (イ) 日頃の生活や活動に役立った (11 名) (ウ) 役に立つ情報が得られた (10 名) (エ) スキルアップに繋がった (6 名) である。</p> <p>② 講座に参加して、今後の生活習慣が変わりそうか?との質問では (ア) 地域の行事に参加する (8 名) (イ) 認知症に関する関心が高まった (7 名) (ウ) 食事に気をつける (7 名) (エ) ウォーキングなどの運動をする (4 名) でした。参加者からは喜んでもらったと思います。</p> <table border="1"> <tr> <td>市民交流センター</td> <td>3 回</td> <td>21 名</td> </tr> <tr> <td>高畑町市営住宅</td> <td>2 回</td> <td>24 名</td> </tr> <tr> <td>甲子園口 6 丁目</td> <td>5 回</td> <td>66 名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>10 回</td> <td>111 名</td> </tr> </table>	市民交流センター	3 回	21 名	高畑町市営住宅	2 回	24 名	甲子園口 6 丁目	5 回	66 名	計	10 回	111 名	<p>(高齢福祉グループ)</p> <p>アンケート結果から、参加者全体の満足度は高く今後生活習慣に何かしらの変化が期待できると思われるので、一定の効果はあったと考えられる。</p> <p>(住宅政策グループ)</p> <p>市営住宅の集会所を活用し、参加者が満足する活動が実施できたこと。市営住宅の集会室のこうした有効活用をこれからも続けていきたい。</p>
市民交流センター	3 回	21 名												
高畑町市営住宅	2 回	24 名												
甲子園口 6 丁目	5 回	66 名												
計	10 回	111 名												
課題	<p>(1) 自治会や団体で定期的に勉強会などを実施しているところと協働しないと、参加者が集められないと考えられる。(例えば同様の講座でも播磨町では毎回 60 名、甲武会館では 30 名前後の参加者であった)</p> <p>(2) 「認知症予防フォーラム」など数百人規模を集め、その場で 5 回連続講座の参加者を募集する・などの方法が良いかも知れない。</p>	<p>(高齢福祉グループ)</p> <p>そもそもこの事業の目的は中高層住宅に住む閉じこもりがちな高齢者を認知症予防の講座に参加させることにあったはずであるが、それが達成されていない。自治会などがしっかりしているところは何をしても人は集まる。そうでないところに住んでいる人に向けてこそ、講座を開催することが必要である。今回の結果からもう少しアプローチの方法を考えるべきである。</p> <p>(住宅政策グループ)</p> <p>広報について、期待した効果を上げられなかった。より良い方法を検討する必要がある。</p>												

注 1 事業実施が確認できる資料 (写真、新聞記事、作成したチラシ、パンフレット等) を添付してください。

注 2 事業の成果・効果欄には来場者数、実施日数等の数値に表れる実績の記載をお願いします。

注 3 ※印の箇所は関係課 (G) で記入します。

自己評価書

(高齢福祉グループ)

事業の名称	中高層住宅に住む高齢者の認知症予防啓発活動	
団体名・氏名 関係課(G)	高齢福祉グループ	
自己評価欄 (該当する選択肢に○をつけてください。)		
1. 計画どおりに実施できたか	1. できた	主な理由 (左記で3, 4を回答した場合に記入) 参加者が計画時に見込んでいた数に比べて大幅に少ない。
	2. 概ねできた	
③. あまりできなかった		
4. ほとんどできなかった		
2. 事業実施により期待した成果を上げることができたか	1. 期待どおり	主な理由 (左記で3, 4を回答した場合に記入) 参加人数が少なく、当初の目的であった中高層住宅に住む閉じこもりがちな高齢者を参加させることに成功したとは言い切れない。
	2. 概ね期待どおり	
	③. あまりなかった	
	4. ほとんどなかった	
3. 協働で事業実施した効果はあったか	1. 非常にあった	主な理由 市政ニュースへの掲載や、自治会の紹介を行った割には参加人数が少ない。
	2. あった	
	③. あまりなかった	
	4. ほとんどなかった	
4. その他、評価すべき点、反省すべき点		

自己評価書

(住宅政策グループ)

事業の名称	中高層住宅に住む高齢者の認知症予防啓発活動	
団体名・氏名 関係課(G)	住宅政策グループ	
自己評価欄（該当する選択肢に○をつけてください。）		
1. 計画どおりに実施できたか	1. できた	主な理由（左記で3, 4を回答した場合に記入）
	○2. 概ねできた 3. あまりできなかった 4. ほとんどできなかった	
2. 事業実施により期待した成果を上げることができたか	1. 期待どおり	主な理由（左記で3, 4を回答した場合に記入）
	○2. 概ね期待どおり 3. あまりなかった 4. ほとんどなかった	
3. 協働で事業実施した効果はあったか	1. 非常にあった	主な理由 高畑町市営住宅運営委員会を紹介することができた。 高畑町市営住宅集会所を有効に活用することができた。
	○2. あった 3. あまりなかった 4. ほとんどなかった	
4. その他、評価すべき点、反省すべき点	<評価すべき点> 参加者に非常に喜ばれる講座が実施できたこと。また主催団体は参加者に写真を配るなど、手厚くサポートしている。 <反省すべき点> 広報について、より効果的な方法を検討する必要がある。	

自 己 評 価 書

(特定非営利活動法人認知症予防サポートネット)

事業の名称	中高層住宅に住む高齢者の認知症予防啓発活動	
団体名・氏名	特定非営利活動法人 認知症予防サポートネット	
関係課(G)	高齢福祉グループ 住宅政策グループ	
自己評価欄 (該当する選択肢に○をつけてください。)		
1. 計画どおりに実施できたか	1. できた	主な理由 (左記で3, 4を回答した場合に記入)
	2. 概ねできた ○ 3. あまりできなかった 4. ほとんどできなかった	①講座の日程や内容は計画通りに実施できた。 ②参加者は計画時に1回の講座で30名程度(計300人)の参加者を見込んでいたが、実際は111名(37%)で期待通りに集まらなかった。
2. 事業実施により期待した成果を上げることができたか	1. 期待どおり	主な理由 (左記で3, 4を回答した場合に記入)
	2. 概ね期待どおり ○ 3. あまりなかった 4. ほとんどなかった	①震災復興住宅に住む高齢者の認知症予防啓発に力を入れたいと考えて、協力を高畑町市営住宅運営委員会と甲子園口6丁目市営住宅自治会にお願いした。 高畑市営住宅集会所は少し狭いと考え、会場を市民交流センターにした。近くの県営住宅へは各戸にチラシを配布し参加を呼びかけた他、近隣の公民館など8箇所合計3,000枚以上のチラシを置いたが、思うように集まらなかった。 甲子園口6丁目での参加者は高畑町より多かったが期待したほどではなかった。 ②理由として、(ア)両自治会では「勉強会」のような集まりは定期的には実施しておらず、馴染みがないこと(イ)各自治会長さんが高齢になっており、動員するには体力的に難しい?・・などが考えられる。
	1. 非常にあった	主な理由

<p>3. 協働で事業実施した効果はあったか</p>	<p>○ 2. あった</p> <p>3. あまりなかった</p> <p>4. ほとんどなかった</p>	<p>参加者 23 名からアンケートを取った結果</p> <p>① 大変満足と満足は 23 名全員であった。満足の理由は、(ア) 他の参加者との交流が図られた (13 名) (イ) 日頃の生活や活動に役立った (11 名) (ウ) 役に立つ情報が得られた (10 名) (エ) スキルアップに繋がった (6 名) であった。</p> <p>② 講座に参加して、今後の生活習慣が変わりそうか? との質問では (ア) 地域の行事に参加する (8 名) (イ) 認知症に関する関心が高まった (7 名) (ウ) 食事に気をつける (7 名) (エ) ウォーキングなどの運動をする (4 名) であった。参加者からは喜んでもらったと思います。</p>
<p>4. その他、評価すべき点、反省すべき点</p>	<p><評価すべき点></p> <p>講座は実際「脳トレ」で行っている内容で行い、参加者からは喜ばれたと考えられる。絵手紙講座では最初、「今までやったことはないので、絶対描かない。会長に言われたから来ただけや・・・」と言っていた方が、途中からキレイな絵手紙を書き始め、最後は「亡くなったお父ちゃんに見せるワ・・・」と言って泣きながら喜んでいました方がおられ、皆さんから拍手が沸き起こった。</p> <p>また、高畑町では絵手紙の自主グループを立ち上げたいとの話がでており、協力すると伝えている。</p> <p>講座ごとに写真も撮り、参加者に差し上げたところ大変喜んでおられた。ある方は「これは遺影に使うように・・・」と息子に伝えたそうです。参加したら大変役立つのに何故少ないの?と言われることもあった。</p> <p><反省点></p> <p>チラシを 3,000 枚ほど配り、県営住宅では了解を得て、各戸にポスティングもしたが余り効果は無かった。やはり団体として纏まっているところで実施しないと参加者が集まり難いと思われる。</p>	